

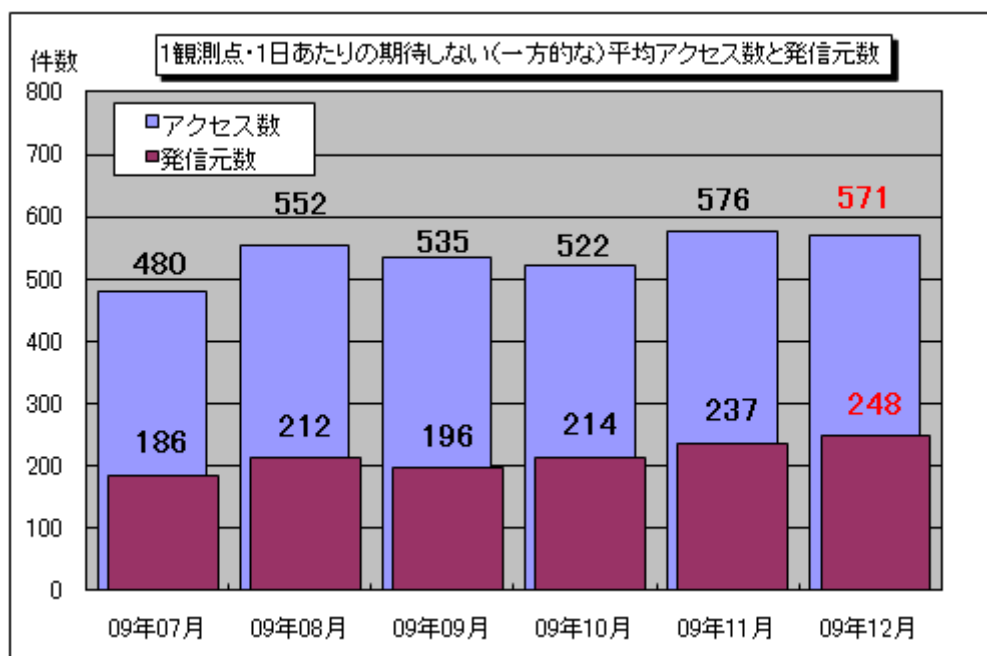
## インターネット定点観測（TALOT2）での観測状況について

### 1. 一般のインターネット利用者の皆さんへ

インターネット定点観測（TALOT2）によると、2009年12月の期待しない（一方的な）アクセスの総数は10観測点で176,871件、延べ発信元数<sup>(※)</sup>は76,781箇所ありました。平均すると、1観測点につき1日あたり248の発信元から571件のアクセスがあったこととなります（図1-1参照）。

延べ発信元数<sup>(※)</sup>：TALOT2の各観測点にアクセスしてきた発信元を単純に足した数のことを、便宜上、延べ発信元数とする。ただし、同一発信元から同一の観測日・観測点・ポートに複数アクセスがあった場合は、発信元数を1としてカウントする。

TALOT2における各観測点の環境は、インターネットを利用される一般的な接続環境と同一なので、インターネットを利用される皆さんの環境へも同じくらいの一方向的アクセスがあると考えられます。

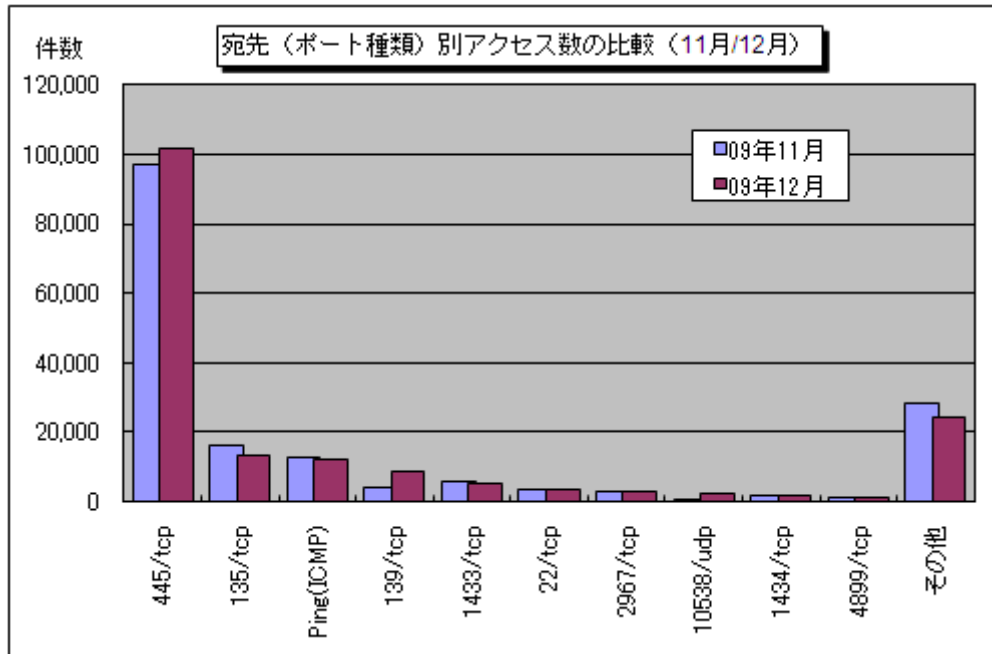


【図1-1：1観測点・1日あたりの期待しない（一方的な）平均アクセス数と発信元数】

2009年7月～2009年12月までの各月の1観測点・1日あたりの平均アクセス数とそれらのアクセスの平均発信元数を図1-1に示します。12月の期待しない（一方的な）アクセスは、11月と比べてほぼ同程度でした。

11月と12月の宛先（ポート種類）別アクセス数の比較を図1-2に示します。11月に比べ増加率が高かったのは139/tcpへのアクセスで、11月の約2.2倍でした。これは11月の下旬から国内からのアクセスが増加し、その状態が継続していたためです。この時期に国内の発信元からのアクセスが増加していた原因は特定できておりません。

また、これまではそれほど多く観測されていなかった10538/udpへのアクセスが、12月14日に急増していました。このアクセスが何を目的としたものだったかは不明ですが、多数の発信元から特定の1観測点のみで観測されたアクセスでした。

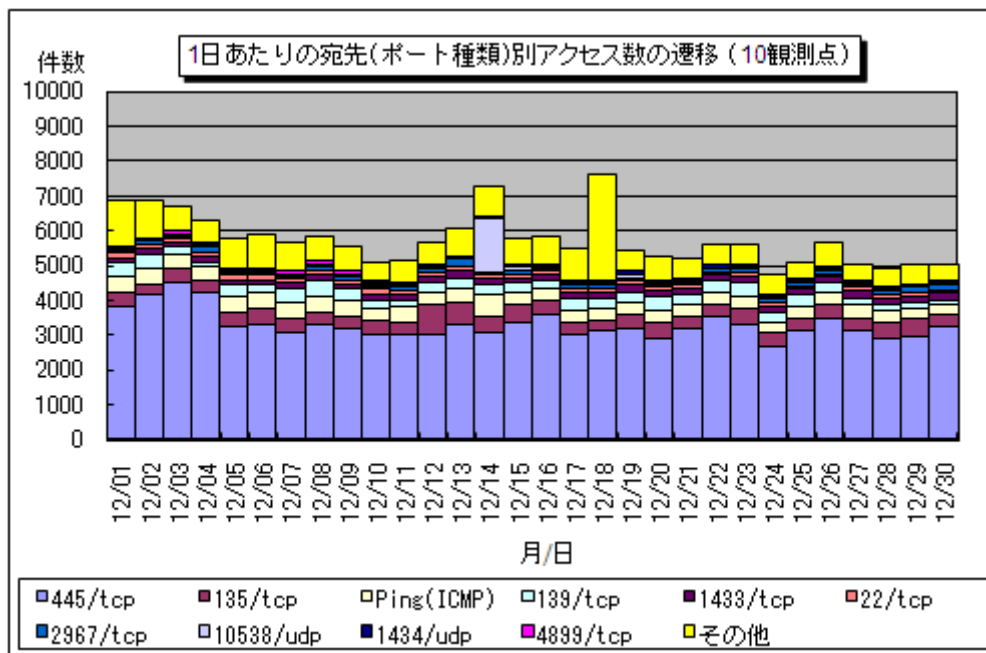


【図 1-2 : 宛先 (ポート種類) 別アクセス数の比較 (11月/12月)】

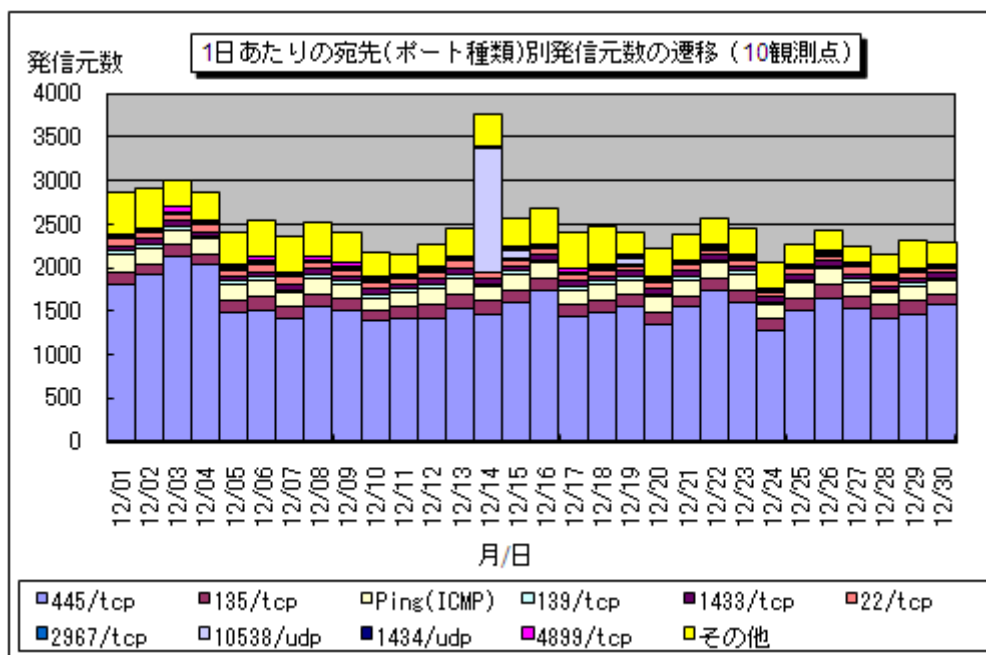
## 2. 2009年12月の一方的なアクセス状況

### (1) 宛先（ポート種類）別のアクセス状況

2009年12月の一方的なアクセス状況（アクセス数）の遷移を図2-1に、一方的なアクセス状況（発信元数）の遷移を図2-2に示します。



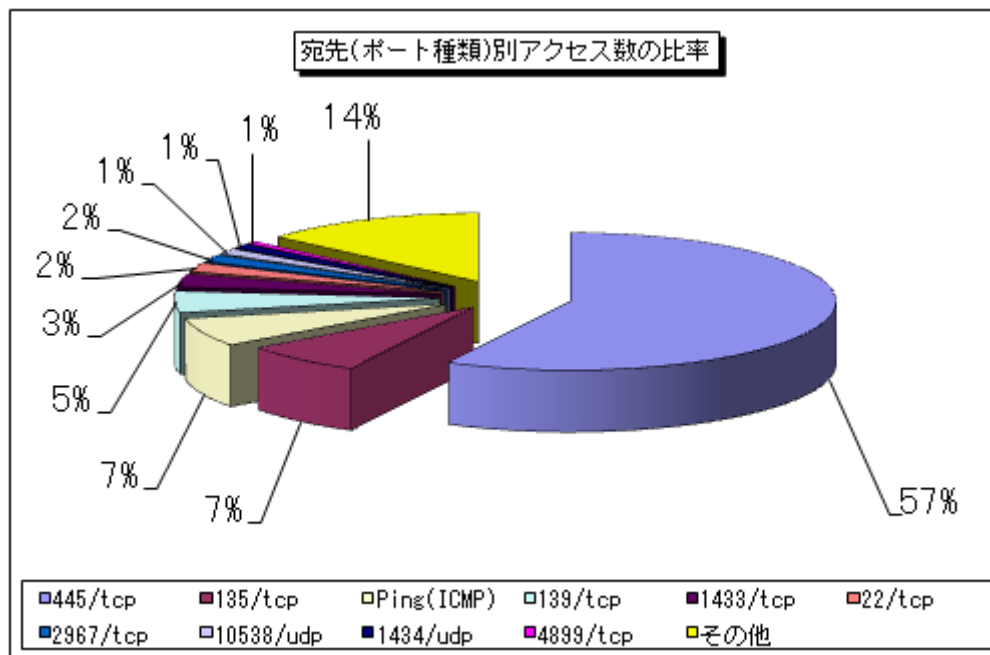
【図 2-1 : 2009年12月の1日あたりの宛先（ポート種類）別アクセス数の遷移】



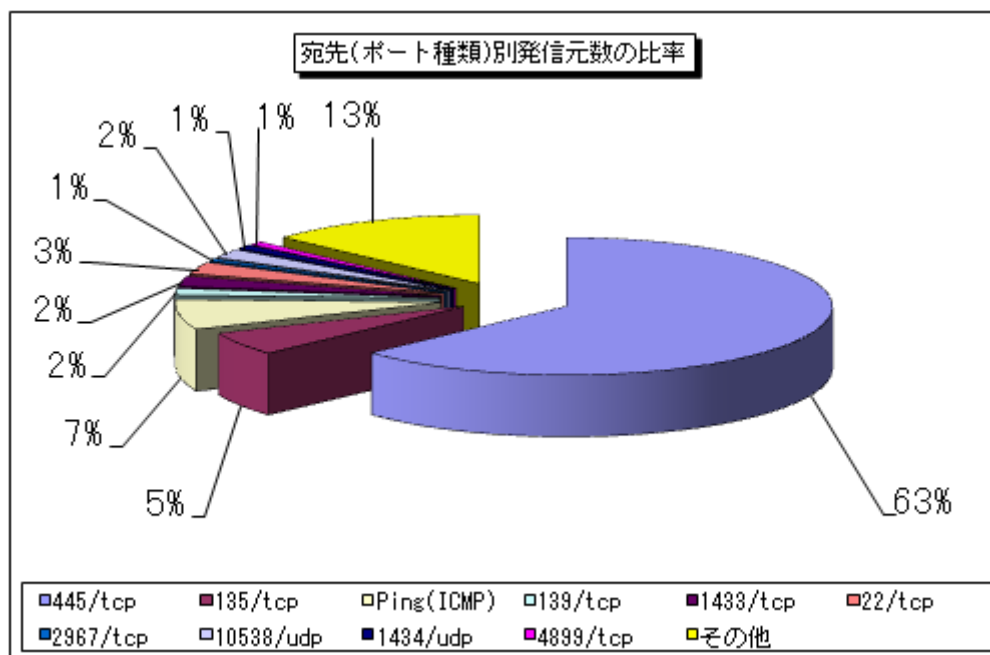
【図 2-2 : 2009年12月の1日あたりの宛先（ポート種類）別発信元数の遷移】

## (2) 宛先（ポート種類）別の比率

2009年12月の一方的なアクセスの宛先（ポート種類）別アクセス数の比率を図2-3に、宛先（ポート種類）別発信元数の比率を図2-4に示します。なお、比率の数字は小数点第一位を四捨五入していますので、合計が100%ちょうどにならない場合があります。



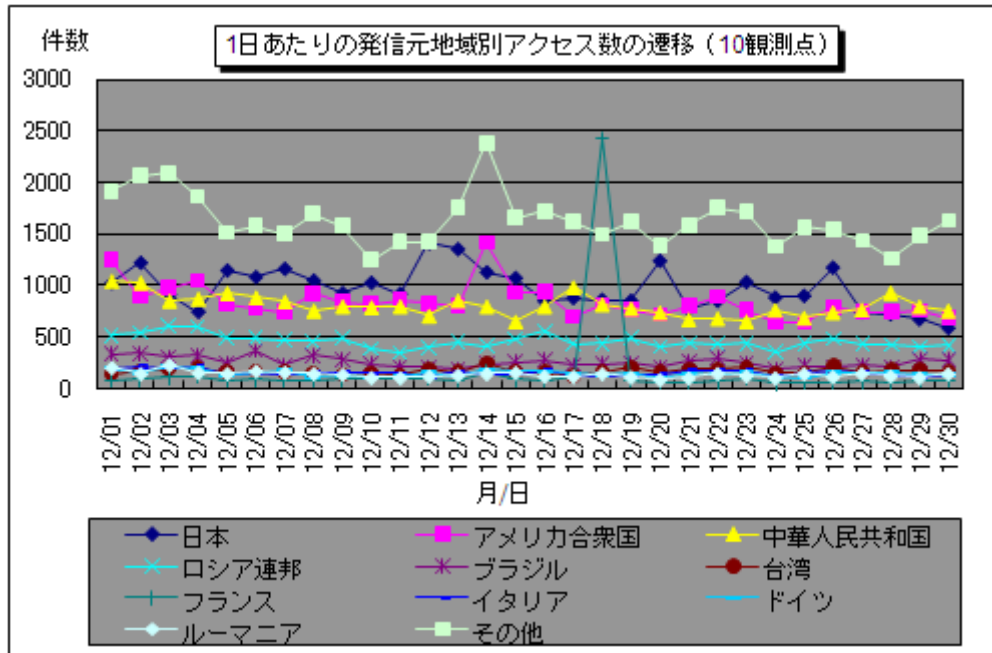
【図 2-3 : 2009 年 12 月の宛先（ポート種類）別アクセス数の比率】



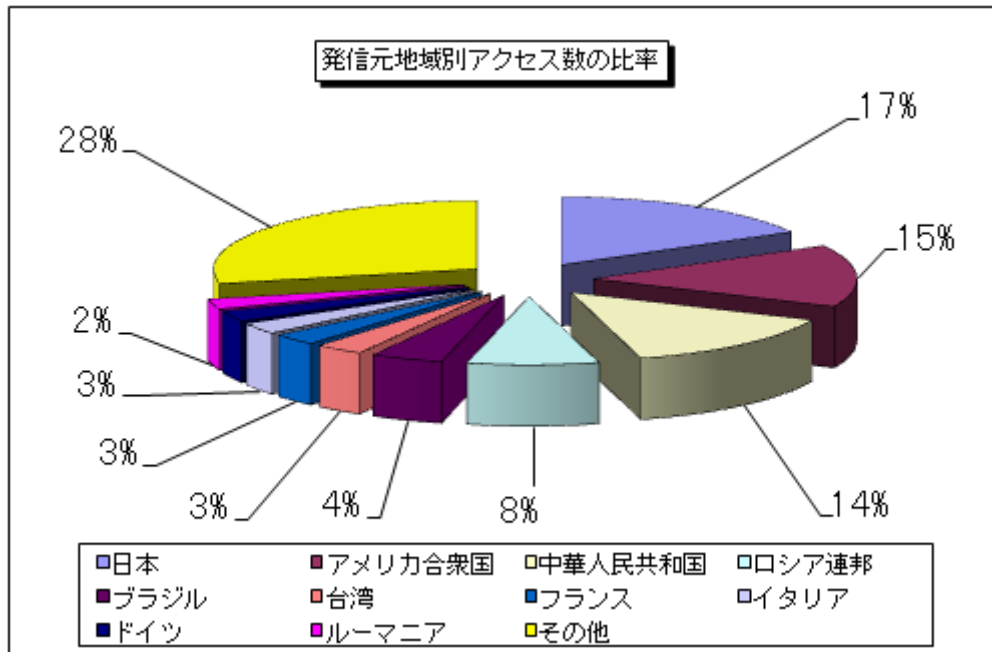
【図 2-4 : 2009 年 12 月の宛先（ポート種類）別発信元数の比率】

### (3) 発信元地域別のアクセス状況

2009年12月の一方的なアクセスの発信元地域別アクセス数の変化を図2-5に、発信元地域別アクセス数の比率を図2-6に示します。なお、比率の数字は小数点第一位を四捨五入していますので、合計が100%ちょうどにならない場合があります。

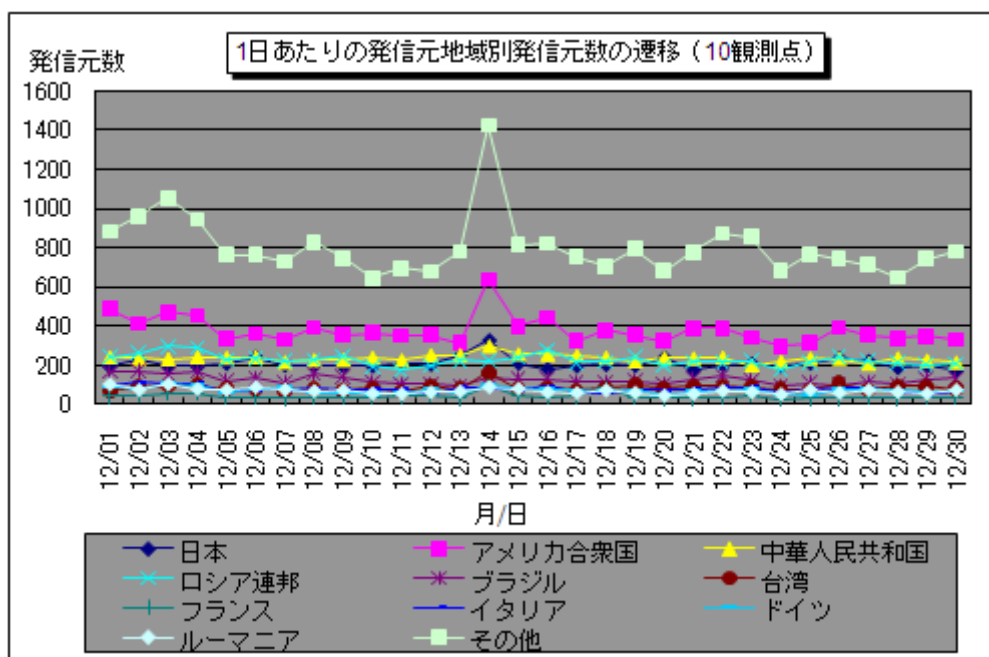


【図 2-5 : 2009 年 12 月の 1 日あたりの発信元地域別アクセス数の遷移】

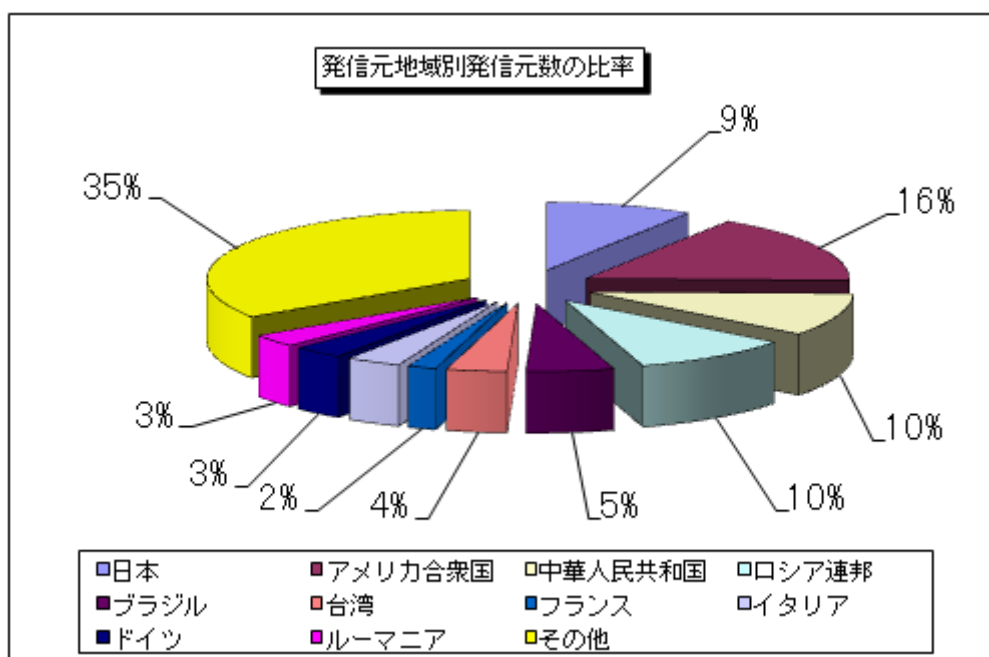


【図 2-6 : 2009 年 12 月の発信元地域別アクセス数の比率】

2009年12月の一方的なアクセスの発信元地域別発信元数の変化を図2-7に、発信元地域別発信元数の比率を図2-8に示します。なお、比率の数字は小数点第一位を四捨五入していますので、合計が100%ちょうどにならない場合があります。



【図 2-7 : 2009 年 12 月の 1 日あたりの発信元地域別発信元数の遷移】

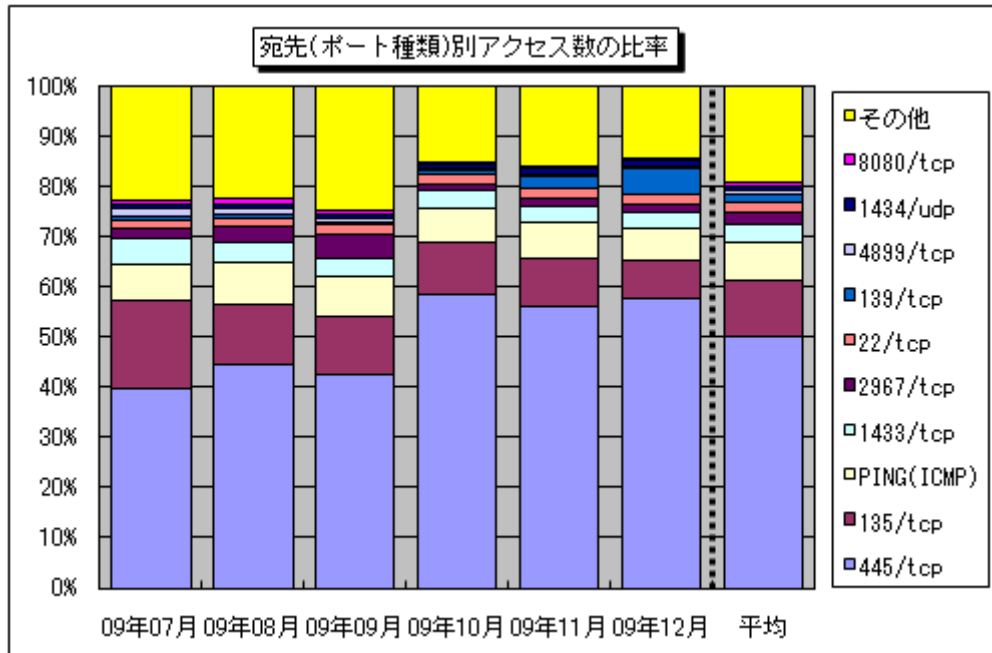


【図 2-8 : 2009 年 12 月の発信元地域別発信元数の比率】

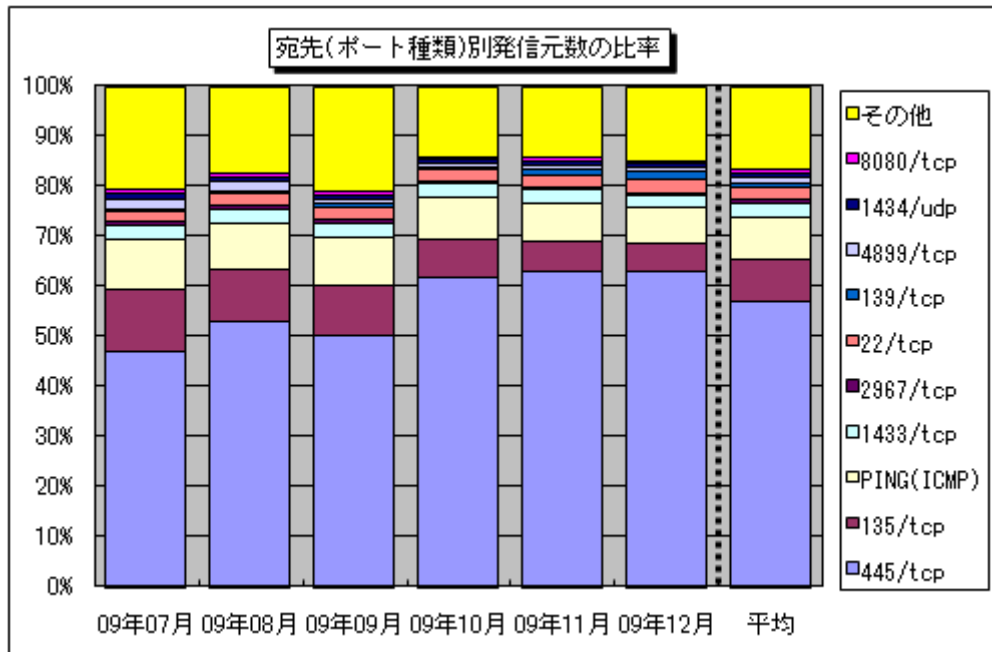
### 3. 統計情報

#### (1) 宛先（ポート種類）別の比率

2009年7月～2009年12月の宛先（ポート種類）別アクセス数の比率を図3-1に、宛先（ポート種類）別発信元数の比率を図3-2に示します。



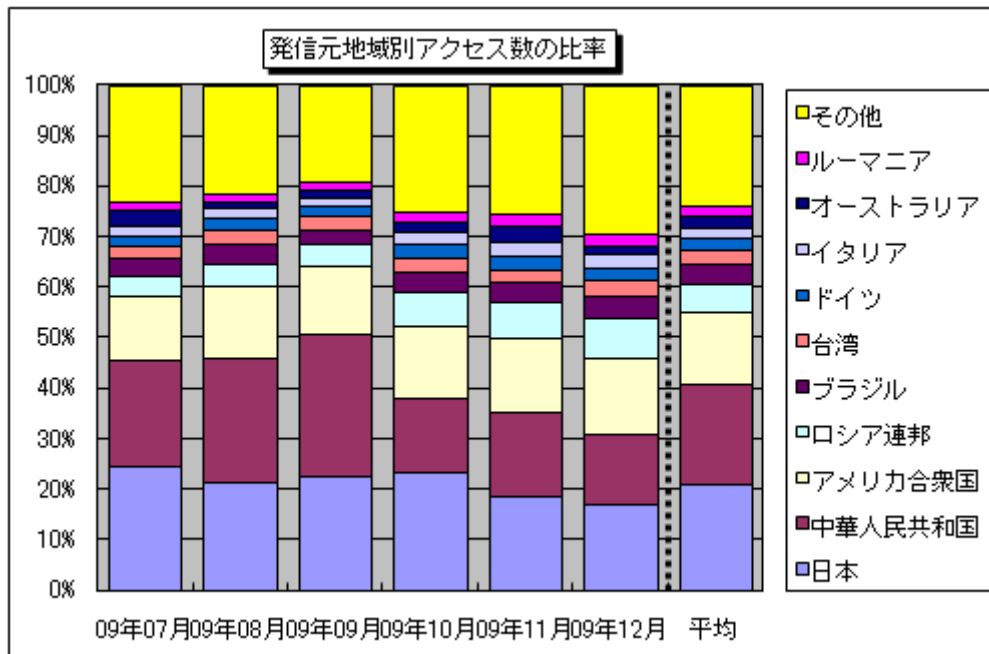
【図 3-1 : 2009 年 7 月～2009 年 12 月の宛先（ポート種類）別アクセス数の比率】



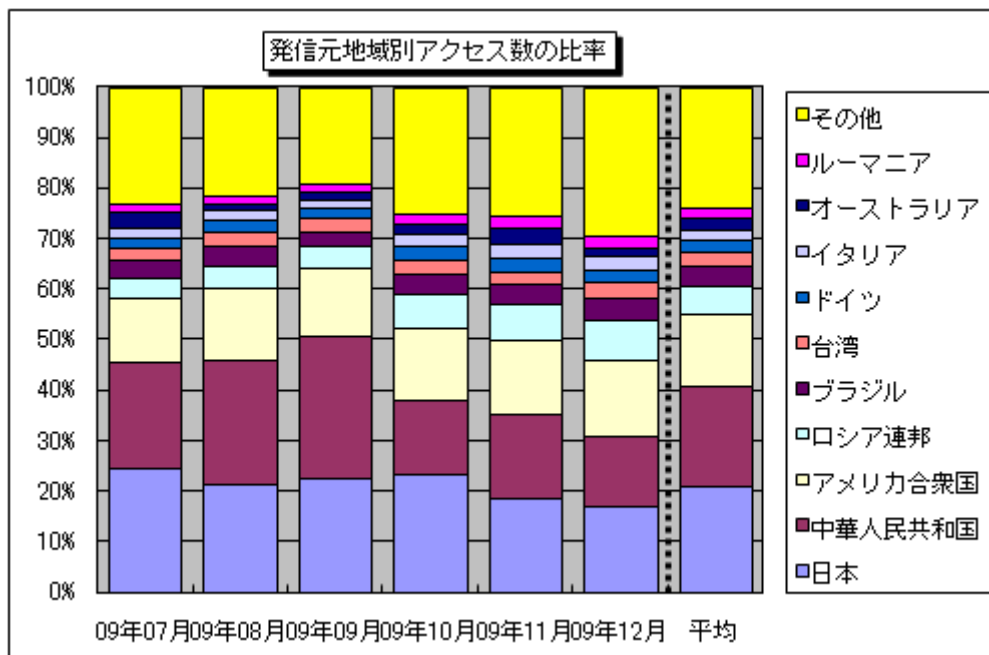
【図 3-2 : 2009 年 7 月～2009 年 12 月の宛先（ポート種類）別発信元数の比率】

## (2) 発信元地域別の比率

2009年7月～2009年12月の発信元地域別アクセス数の比率を図3-3に、発信元地域別発信元数の比率を図3-4に示します。



【図 3-3 : 2009 年 7 月～2009 年 12 月の発信元地域別アクセス数の比率】



【図 3-4 : 2009 年 7 月～2009 年 12 月の発信元地域別発信元数の比率】



#### 4. 補足説明

以下に、2009年12月にアクセス数の多かった宛先（ポート種類）の解説を行います。

ポート種類	解説
445/tcp	保護の甘いファイル（ネットワーク）共有やWindows2000特有の脆弱性を狙った不正アクセスが有名（W32/Sasserなど）。また、Windowsの脆弱性（MS08-067）を悪用するワームが狙う可能性の高いポートでもある（W32/Downadなど）。
135/tcp	Microsoft Windows Remote Procedure Call（RPC）のデフォルトポートであり、RPCに関する脆弱性（MS03-026）を狙った不正アクセスが有名（W32/MSBlasterなど）。
Ping（ICMP）	相手のコンピュータが動作中か調べる目的で使用されるが、不正アクセスの対象コンピュータを探す目的で、W32/Welchiaなどに利用されたことで有名。
139/tcp	保護の甘いファイル（ネットワーク）共有を狙った不正アクセスが有名ですが、一般的にWindowsの脆弱性を狙ったアクセスである可能性が高い。
1433/tcp	Microsoft SQL Serverの既定ポートであり、SQL Serverが動作中のコンピュータを探す目的や、SQL Serverの脆弱性を狙ったアクセスである可能性が高い。
22/tcp	パスワードクラッキング攻撃によるシステムへの侵入を目的とした、SSH（Secure SHell … ネットワークを介して遠隔のコンピュータと通信するためのプロトコルの一つ）を狙ったアクセス。
2967/tcp	Symantec製品（Symantec Client Security や Symantec AntiVirus など）の脆弱性を狙ったアクセスである可能性が高い。
10538/udp	特定の日に多数の発信元から1つの観測点のみに送られていた原因不明のアクセス。
1434/udp	Microsoft SQL Serverの脆弱性を狙った不正アクセスなどが有名（W32/SQLSlammerなど）。
4899/tcp	RAdminの脆弱性を狙った不正アクセスが有名（RAdminは複数のコンピュータを遠隔操作するためのアプリケーション）。

#### ■お問い合わせ先

IPA セキュリティセンター 大浦／花村／加賀谷

Tel:03-5978-7527 Fax:03-5978-7518

E-mail: [isec-info@ipa.go.jp](mailto:isec-info@ipa.go.jp)